

中国における地震災害档案の基礎的研究
—収集方針を中心に—
Basic Research on Earthquake Disaster Archives in China
-Focusing on the Collective Policy-

学籍番号：201921654

氏名：安 竟毓

An Jingyu

中国ではアーカイブ資料群を档案と呼んでいる。1979 年から各档案馆は目録を作成し、独自の分類方法を用いていた。1989 年に出版された『中国档案分類法』は 4 つの基本類に分けられており、地震に関する档案は「総合技術服務」の「T. 海洋、気象、地震、測繪」に属している。このような経緯から地震档案という言葉が使われ始めたと思われる。

中国では唐山地震、大同一陽高 6.1 級地震、四川大地震は被害が最も大きい地震であり、中国における地震災害档案の研究に多大な影響を与えた地震である。1976 年唐山地震以降、地震に関する档案への関心が高まり、2008 年四川大地震後に再注目され、現在でも議論されている。また、近年地震に関する档案の研究は社会記憶という観点で取り組まれている。しかし、中国における地震に関する档案を表現する言葉は整理されておらず、その意味も十分検討されていない。そのため、中国の地震に関する档案の収集と実態が不明であり、その調査研究を行う上で困難が生じている。

以上で述べた背景を踏まえ、本研究では日本の災害アーカイブの研究を参考に、中国における地震災害档案の全体像を明らかにすることを研究目的とする。この研究により、今後の地震災害档案を収集・保存する参考になり、中国における災害アーカイブズの研究進展と理解に資する。本研究では以上の研究目的に基づき、三つの研究課題を設定する。

研究課題①：地震に関する档案の名称とその意味の変遷を明らかにする。

研究課題②：档案馆と地震局が実際に取り組んだ活動から地震災害档案の収集過程と収集方針を調査する。

研究課題③：地震災害档案の実態を明らかにする。

本研究では文献調査と現地調査を行う。文献調査では、日本の災害アーカイブの研究を参考に、地震災害档案に関する雑誌論文、公文書、管理制度、図書、新聞を調査し、研究課題①と研究課題②を解明する。現地調査では、対象地震の被災地档案馆・地震局・記念館に赴き、研究課題③を明らかにする。

その結果、研究課題①において、「地震档案」「抗震救災档案」「地震專題档案」「突発事件档案」「重大事件档案」「地震災害档案」6 つの名称とその意味の変遷を解明した。研究課題②において、唐山地震、大同一陽高 6.1 級地震、四川大地震における地震災害档案の収集経過と収集方針を検討することにより、中国では災害の記録を後に残す意識が強いことを明らかにした。研究課題③において、3 つの地震の地震災害档案は地震発生地档案馆・地震局・地震記念館に所蔵し、常用档案と展示品として使用されていることを解明した。これにより、中国における地震災害档案の全体像を明らかにした。

研究指導教員：白井哲哉

副指導教員：BARYSHEV, Eduard